

1 開所について

○開所日数 実績

	平成29年度	平成30年度	令和1年度
就労継続支援B型	256	239	253
生活介護	259	255	266

○平均利用者数（実績）

	平成29年度	平成30年度	令和1年度
就労継続支援B型	15.9人	14.1人	16.7人
生活介護	8.9人	8.9人	9.8人
多機能型（全体）	24.8人	23人	26.5人

○開所日数 253日（昨年239日） 就労継続支援B型

月度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
日数	20	22	21	21	22	20	21
月度	11月	12月	1月	2月	3月		
日数	22	22	20	21	21		

- ・工房／喫茶共に、仕事への取り組み姿勢が積極的になり、利用者の皆様の出席率も上がっている状況、限定曜日利用の方々が、毎日通って頂けるよう個別な取り組みなどもあり利用日数が増加しました。
- ・特別開所は、作業による開所を試みたが、「土・日曜日はゆっくり休みたい、仕事をしたくない」という理由により、参加希望者が少なく中止することもあった。
- ・利用者のニーズに応えるように、開所日数を計画的に減らす、内容を余暇支援に変更するなど計画を修正、開所日数は減ったが開所時の参加人数は増加しました。

開所日数 266日（昨年255日） 生活介護

月度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
日数	22	22	21	22	22	23	22
月度	11月	12月	1月	2月	3月		
日数	23	22	22	22	23		

- ・コロナウイルス対策、インフルエンザ予防接種等の徹底により、感染者が発生せず昨年同時期に比べて、利用者の利用日数が増加しました。
- ・特別開所については、利用者個々への細かな配慮（見守り、介助、介護）により、安定した利用に繋がっています。
- ・活動内容も昨年に引き続き、通常の日課による活動を行うことで安心して通って頂けています。本人や家族とのモニタリングの中でも「通うのが楽しい」という感想を多く頂きました。

2 利用者について

就労継続支援B型

定員 20名 現員 21名 (工房 16名 喫茶 5名)

- 相談支援事業所、特別支援学校より、利用希望者を積極的に受入れ、見学、体験、実習を行うことで、利用に繋がり利用者も増加したが、現在の環境ではこれ以上の受け入れは難しい。
 - ・工房においては、スペースが狭く不便をかけている状態が続いています。
 - ・就労への意向がある利用者への働きかけの機会を増やし、自身の意識を高める支援を継続しています。

生活介護

定員 10名 現員 11名

- 包括的な支援が必要なケースが増え、関係機関との調整、連携が重要になってきた。以前より、身体機能の低下が見られ、排泄や身体整容（洗顔・歯磨き・整髪・爪切り）の介助や介護の必要な場面が増え、衛生面の支援も重要になってきています。急な保護者の入院に伴い、通所が困難な状況になったが、個別の送迎や生活の支援を行うことで通うことができました。
 - ・利用者の抱えている課題や困難に対しての支援や対応についても、関係機関や保護者との連携だけでは解決できないケースも出ています。
 - ・利用者本人、保護者の高齢化により、生活面での不安が高まっている。特に、核家族、父子、母子家庭で近くに頼れる親族等がない環境にあり、利用者本人の生活に関しては、困難な状況になってしまう事が「いつ起こっても」という状態が続いています。
 - ・保護者・本人の重度化・高齢化、親亡き後への備えなど、対応が必要な様々な課題に対して、行政や地域の体制が追い付いていない現状から、自助努力による備えを家庭と検討しています。

3 作業について

就労継続支援B型

作業工賃 工賃総額 3,232,470円 (30年度工賃総額 3,195,327円)

月一人当たり平均工賃 14,115円 (30年度平均工賃 13,892円)

○ 工房

- ・下請作業の受注に関しては、繁忙期、閑散期の差がなくなり年間通して安定して受注をいただけていますが、時期により許容範囲を超えてしまい、職員の負担が大きくなることがありました。
- ・除草作業
実績 23件 696,355円 (平成30年実績 24件 600,520円)
夏場は、昨年の反省を活かして、猛暑に対応、受注を調整しました。
- ・出張販売(市役所等)は、喫茶を中心とした移動販売に変更、工房においても自主製品の販売活動の場として活用しています。

○ 喫茶

売上 4,698,040円 2月現在 (30年度 5,367,895円 29年度 5,984,650円)

- ・社会的に外食産業の競争激化や福祉会館利用の在り方も大きく変わるなど様々な要因で、集客が

減少、年間では総売り上げも減少しています。店舗だけの努力では売上増は難しい状況の中、利用者、スタッフ全員で前向きに様々な取り組みを行うことで、ここ数ヶ月は回復の兆しが見えていましたが、ここに至って、新型コロナウイルスによる感染症リスクの風評もあり、厳しい状況になっています。今後もこの状況は続き場合によっては休業等の措置も必要になると想定できます。

生活介護

○ 作業工賃

工賃総額 494,934 円 (30 年度工賃総額 529,717 円)

月一人当たり平均工賃 3,778 円 (29 年度平均工賃 4,312 円)

- ・作業状況を考えると、これ以上の工賃アップは、職員の負担のみが大きくなる為、難しいが、利用者の工賃への期待にはできる限り応えてあげていきたい。
- ・現在の工賃を維持する事は担当職員の負担も大きく、利用者への個別の支援に影響が出るため生産活動以外の活動を増やすように進めています。

4 生活支援について

就労継続支援 B 型

- 日々の作業や生活を継続していくために、健康を維持、病気や怪我の予防を目的に健康管理を行っています。
- ・歯科医師会による年 1 回の歯科検診を受診、診断結果を各利用者に伝えその後の治療や予防に役立てています。また、感染症対策として日々の手洗い、換気の励行、温度・湿度の管理を徹底しています。
- ・夏季には、熱中症の予防のため、活動中の適度な休憩、水分補給を利用者に促し、除草作業、資材製品の搬出搬入など、屋外での活動時は特に注意をしました。
- ・インフルエンザの感染予防のため、職員を含めた利用者全員が予防接種を行い、流行時期には手洗い、うがい、検温を徹底した結果、1 人の感染者もなく過ごすことができました。

生活介護

- 作業を中心とした日課の中で、利用者一人一人の意向に沿った活動を取り入れています。
- ・心身の健康維持を図るため、音楽教室による音楽療法、ヨガ教室による運動支援などのボランティア講師を依頼して楽しく継続しています。
- ・各種行事などを通じて社会生活体験の機会を提供、参加していただいたよう努めています。
- ・嘱託医師による月 1 回の健康相談、静岡県助成事業による年 1 回の歯科検診を継続。
- ・定期健康診断を案内にて促し、希望により協力医院に付き添い全員の方が行いました。また、感染症対策として、通所時の検温、日々の手洗い、換気の励行、温度・湿度の管理は昨年度より強化徹底しています。
- ・夏季には、熱中症対策として、屋内での活動中も適度な休憩、水分補給を促した。屋外での活動時（散歩、外出）には、利用者の状態に合わせて外出を控えることや外出する場合の暑さ対策を徹底しました。

5 年間行事について

就労継続支援B型

○ 利用者の就労支援に直接結びつく要素が薄い行事（レクリエーション）への参加、実施は行わず、示された要件を満たした行事のみ行いました。

年間行事・・・日帰りバス旅行（社会体験活動）ふれあいレクリエーション大会（就労に繋がる体力作り、運動支援）特別開所時に行う余暇支援（自立した余暇時間の過ごし方の支援）

生活介護

○ 野いちご事業所全体での行事や活動については、移動に時間がかかり、利用者によっては、場所や雰囲気になじめず、不安定になってしまうなどにより、全員揃って参加とすることが困難になっています。その為、小規模にて行い参加いただいています。

年間行事・・・日帰りバス旅行 ふれあいレクリエーション大会 ドライブ遠足

6 職員研修について

○ 事業、活動場所の分散により、職員間の情報、課題の共有の場面が少なくなりつつあるため同一法人職員としての交流の機会を増やす事に努めています。

- ・ 就労継続支援B型・生活介護、各事業による職員会議・連絡会を毎月度行っています。
- ・ 計画的な外部研修参加で専門知識、技術の習得を図っています。研修後の報告会にて知識技術を職員間にて共有できるよう努めています。
- ・ 日常的に必要ながあれば、職員間の情報共有を随時、行っています。

7 防災について

○ 防災・避難訓練／防災設備点検

- ・ 各事業、毎月、それぞれの状況に合わせて訓練を実施。
- ・ 設備点検を年2回 業者に依頼。
- ・ 防災の日、合同防災訓練（就労継続支援、生活介護）を実施。
- ・ 非常食は、事業所としての備蓄にはスペース的にも限界があるため、すぐに持ち出せる非常食を利用者一人一人が用意、緊急時に備えました。

様々な災害が想定される為、行政の指導のもと対応をマニュアル化しています。今後は読み合わせ、内容の確認を行い、マニュアルに沿った訓練を行っていきます。